

令和6年度 第6回 千葉市自立支援協議会 運営事務局会議 議事録

開催日時	令和7年3月27日(木) 14時00分～16時00分	
開催場所	美浜区保健福祉センター 4階 大会議室	
出席者	<委員>	
	伊藤 佳世子 氏	(中央区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	田口 洋平 氏	(花見川区障害者基幹相談支援センター 相談員)※代理出席
	井出 孝子 氏	(稲毛区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	由良 亮人 氏	(緑区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	伊藤 正彦 氏	(若葉区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	末永 慎介 氏	(鎌取相談支援センター 施設長)
	高柳 佳弘 氏	(メープルリーフ 運営管理者)
	平田 智子 氏	(千葉市ひきこもり地域支援センター 事業責任者)
	鈴木 信知 氏	(千葉市社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域福祉推進班)
	仲村 美緒 氏	(千葉市発達障害者支援センター 所長)
	山崎 貴裕 氏	(中央区高齢障害支援課 障害支援班主査)
	荒井 拓 氏	(障害福祉サービス課 指導班 主査)
	北島 岳彦 氏	(障害福祉サービス課 地域支援班 主査)
	永井 智也 氏	(精神保健福祉課 通報対策班 主事)
	<オブザーバー>	
	吉田 美穂 氏	(障害福祉サービス課 地域支援班 主任主事)
	高橋 氏	(埼玉福祉事業協会)
	<事務局>	
	藤本 真由美 氏	(美浜区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	<欠席>	
	近藤 秀登 氏	(花見川区障害者基幹相談支援センター 管理者)
	土屋 昌之 氏	(有限会社トータル介護サービスアイ 千葉営業所 所長)
	藤尾 健二 氏	(千葉障害者就業支援キャリアセンター センター長)
	木村 一夫 氏	(花見川区高齢障害支援課 障害支援班主査)
	垂水 成人 氏	(障害者自立支援課 企画班 主査)
藤崎 直樹 氏	(障害者自立支援課 給付班 主査)	
北田 幸一 氏	(障害福祉サービス課 施設支援班 主査)	
議題	議題1:【報告】各区の地域部会からの報告 議題2:【報告】医療的ケア児専門部会からの報告 議題3:【報告】にも包括からの報告 議題4:【報告】就労部会からの報告 議題5:【指針】児童発達支援センターの指針について 議題6:【報告】地域生活支援拠点からの報告 議題7:【報告】行動障害を考える会からの報告 議題8:【報告】その他 令和6年度相談支援従事者現任研修の報告	
議事	議題1【報告】各区地域部会	資料①
	中央区基幹 伊藤氏 ・運営事務局会議や医ケアの報告や8050部会の話しをした。8050部会で来年度「どうすればよかったか」という映画の上映を検討している。未治療でなかなか	

か親が子の病気を認めることができないという家庭の映画。8050の根幹の部分は、親が障害や病気を受容していけないというところ。時代の流れなどもあり、優生保護法等での病気の受容や病名を付けること等のリスクがあったことなどを理解し、関わることは重要だと考え、来年度は映画の上映会を意見交換の場を持ちたい。

- ・各所で苦情や恨みの気持ちを持たれてしまった時の対応について苦慮しているという話しが出た。そのような方が事業所等に急に来た場合等の対応方法について情報を共有した。来年度も引き続き共有したい。
- ・在宅の方が通所を休むようになり、そのまま連絡が取れず自宅で亡くなっていたというケース。身寄りのない方で連絡が取れなくなった後、どういふ対応を関係機関がしたらいいのか、情報共有した。

花見川区基幹 田口氏

- ・各部会等の報告後、メインテーマとして子ども発達相談室を招き、相談室の役割の説明や相談内容、対応について情報共有いただいた。地域部会は各障害分野からの参加者がいるが、分野が異なる子どもについても我が事として考えていただけるよう、どのように接点を持つことができるか意見交換をした。地域作りを強化していく上で、各々の機関がお互いの立場を知りながら我が事として知ることができた良い機会となった。

稲毛区基幹 井出氏

- ・地域部会を2月27日に開催、事例検討を実施。困難ケースとして何度も地域部会で取り上げているケース。今までは基幹からのケース発表をメインとしていたが、今回は「この方」を支えている地域の関係機関の皆様にお越しいただき、実際に受け手側として、どこに難しさを感じたのか事業者側の視点でお話しいただいた。一日の中でも午前午後で希望を変更、医療機関での対応も難しいケースでもあり、意思決定支援の在り方についても悩んだケース、参加者で意見交換を行った。

若葉区基幹 伊藤氏

地域部会では大きく二つテーマがあった。

- ・一つは事業所から介護包括と日中支援型のグループホームの現状についてお話しいただいた。その中でそのグループホームだけではなく、ヘルパーも活用しながら対応している話や、今後地域連携会議を開催していくという話しがあった。
- ・もう一つは事例検討。高齢の母と二人暮らしの世帯で緊急で対応した件について、母が入院する状況で、本人をどうするかをテーマに話した。初めは本人の兄弟が本人を看たが、親と兄弟の意向にずれがあり、方針の差から親子の関係性が悪化してしまった。親子関係は過去からの経過を踏まえて対応する必要があると感じた。事例提供者からは、親が子を家から出していくという意識が薄い方もいる、その場合には相談員から方向性について示してほしいという意見があった。また、その中で、緊急での依頼時、様々な理由から状況的に2泊3日では適切ではないのに自宅に帰されてしまったケースなど、関係者側から見ると、自宅に戻す判断が適切だったかどうか、疑問に思ったという話しがあった。

緑区基幹 由良氏

- ・運営事務局会議や各部会等の報告をする中で、「行動障害を考える会」の報告に関心を持たれる方が多くみられた。12月に行動障害のある方を対象として実施したアンケートの結果が公表され、その結果を報告したところ、内容に関心を示し、調査対象である行動障害のある方が564名もいることに驚く委員も

いた。委員の知的障害者相談員からは、どれだけの数の親が毎日自宅で強度行動障害のある子どもと生活し、そのなかで沢山の困難に直面しているかという事実を共有することができ、親亡き後のことを想像し、将来的にグループホームや施設入所のことを考える必要性に気づかされ、今後について検討する機会となったという意見があり、非常に重いアンケート結果として受け止められた。

- ・「東京 2025 デフリンピックについて～千葉県立千葉聾学校の取り組み」を取り上げた。今回のデフリンピックは令和 7 年 11 月 15 日～26 日の 12 日間にわたり東京での開催となる。千葉県立聾学校が啓発活動をしており、同じ緑区内に所属するものとして、普及啓発活動に協力して盛り上げていきたい。日程が近くなったらまた周知していくこととした。

美浜区基幹 藤本

- ・前半は地域課題についての情報交換を行った。今年度は幼稚園への入学が出来なかったという相談が減った。要因は、児童の相談先・療育先の増加からなのか等、意見を交換した。また、開発が進む若葉地区については、各機関での関わりが増えているとのことだった。ヘルパーからはタワーマンションに住む利用者がマンション内で迷子になったり、セキュリティーが複数あるために利用者が複数のセキュリティー解除に対応しきれず、訪問に時間がかかったりといった特有の問題があるようだ。また、駐車場確保にも時間が掛かる等の課題も提起された。一方で親の会からは、若い親の新規加入が少ないという課題があったが、開発中のエリアからの若い親の新規参加が複数あり、会が活性化してきているとのことだった。
- ・後半は地域防災について。10 月に実施した避難訓練の報告をし、それぞれの立場からどのような防災活動しているかご意見をいただいた。知的障害親の会の方が近い者同士でグループを作り自助・共助の活動をしている、社会福祉協議会のボランティアの話など、様々な視点からお話をいただいた。
- ・2 月 26 日には児童の交流会を実施し、千葉市立高等特別支援学校のコーディネーターの先生にお話をいただいた。就職に向けて、どのような教育をしているか、就職への道筋等を伺った。後半はグループワークで意見交換をした。

【質疑】

社会福祉協議会 鈴木氏

- ・中央区で、自宅で亡くなられていた件で、高齢者側への対応について、過去に区の事務所にいたときの対応等、情報としてお伝えしたい。
例えば遠方の親戚等から「数日間連絡が取れないことから様子を見に行って欲しい」など急を要する相談については、区高齢障害支援課やあんしんケアセンターに対応履歴があるかの確認を行うとともに、民生委員とも連携し現地の確認を行い、必要に応じ警察や消防に通報する等の対応を行う場合がある。また、未然の対応として、地域によっては見守り活動、地域の集いの場などの取り組みが行われており、参加者の様子がいつもと違うことに気が付いたボランティアや民生委員から、社会福祉協議会または直接専門機関へ情報を繋ぐ等している。

議題 2 【報告】医療的ケア児とコーディネーターの年間活動報告

資料②

中央区基幹 伊藤氏

- ・2 月の医ケア部会にて医療的ケア児等コーディネーターの年間報告を実施。各区に医療的ケア児等コーディネーターが配置され、昨年度はコーディネーター会議を 6 回開催した。

- ・活動内容は、個別避難計画の作成についての検討や、個別避難計画を作成した方の避難訓練の実施等である。個別避難訓練については11月に6区それぞれ実施した。地域住民や多くの行政職員に参加いただき取組を見ていただけたことが大きかった。今年度は専門職を中心に行った。今年度の経験をどうやって地域の住民に伝えていくか検討していく。来年度は避難所運営委員会と一緒にを行うことが目標。
- ・日中活動の事業所の紹介や病院の取組について、毎年様々な話をしている。
- ・今年は千葉県の医療的ケア児の通学にかかる保護者支援モデル事業が始まった。訪問看護とタクシーを活用し、通学支援を実施するもの。市内では袖ヶ浦特別支援学校と桜が丘特別支援学校が対象で準備をしていたが、なかなかうまく進まなかった。県からは12月に説明いただき、3月には実際にモデル事業に参加した方から取組についての報告をいただいた。基幹も実際のモデル事業を見学。家族からは、毎日送迎する事が当たり前になっていたが、「行ってらっしゃい」と送り出せる日が来たことを大変喜んでいるとの感想があった。同じく3月には教育委員会の取組で、千葉市の小学校や中学校にメディカルサポーター、看護師さんが巡回し、学校の中でケアをすることで、結果、地域の学校に行ける児童がたくさん増えていることを千葉市からお話しいただいた。
- ・医療的ケアのある方を受け入れる事業所交流会を実施。ここ3年ほど毎年実施している。今年も32事業所が参加。医療的ケアのある方の送迎や入浴をたくさん行うと経営的に厳しいという話等、運営の大変さや取組の工夫などの意見交換をした。
- ・視線入力について。自立支援課に協力いただき12月16日～27日にモノレール千葉駅にて視線入力で描いた絵の展示会を実施。また、視線入力に関して、EyeMoTの勉強会を12月21日に島根大学の先生に来ていただき、ぼらりすと共催で実施した。視線入力で画面に入れた風船に目が合うと風船が割れ、割れた時にクッションがぶるぶるぶると震える。それを何回かやるうちに射的でバンバンバンと打てるようになり、刺激を与えることで反応が能動的に変わっていく経緯が見え、今まで自分では意思を発信する事が難しいと思っていた方の意思伝達についての認識が変わった。通所の事業所もたくさん研修に参加していたので、取り入れていけると良いと思った。10人のモニターが参加してくださり、いろいろな工夫をして視線入力での意思伝達をどうやっていくのかを学んだ。
- ・シーティングの車椅子の使い方などの勉強会を3月8日に実施した。

【質疑】

鎌取相談支援センター 末永氏

- ・通学の移動の支援というのは、福祉サービスの申請が必要か、独自のものか。

中央区基幹 伊藤氏

- ・千葉県が独自事業として取り組んでいるもの。今まで医療的ケアの必要な方は送迎バスに乗れずに、家族が送迎してきたが、県で通学の支援を検討しモデル校5校にて実施した。

議題3【報告】にも包括 令和6年度活動報告

資料③

議題3

鎌取相談支援センター 末永氏

- ・進め隊では、地域生活支援の継続にあたり、医療機関や地域でどのような課題を抱えているのかニーズ調査を目的としていた。方法は調査票ではなく、実際に会って、生の声からニーズを拾うという方法で実施。精神科医療機関相談員

の交流会では6医療機関が参加。実際は地域との連携の仕方など病院それぞれであり共通のことが見つけづらかった。共通している部分としては、地域との連絡が取りづらいとのことであった。地域が病院に対して感じていることと同様であり、お互いに意思疎通が難しいということがわかった。構築推進サポーターの活用も含め、医療機関の実情に合わせ、運用していくことが必要だと感じた。

- ・相談支援事業所交流会では、地域移行の手順書、マニュアルの説明や、医療機関と相談支援事業所の連携2事例の報告をした。マニュアルを作成したことにより、地域移行の見える化が出来てきた。相談員からは、連携事例に関して慣れた人同士だから出来るのではという意見があった。次年度は医療機関と相談員が直接交流できる会等、業種横断的な会を持つことで顔が見え、お互いのことがわかる関係を作る機会を設けていきたい。
- ・病院研修を実施。地域移行の実績があまりない病院で実施した。地域と医療が連携した事例について報告したが、病院の負担感が大きいのではという意見があり、意図していたものと異なる結果となった。これから地域移行支援に着手する病院に対してはシンプルなメッセージで伝える必要があると感じた。
- ・広め隊の啓発活動は、公民館講座を4か所で実施した。課題としては公民館で実施するといった部分から参加者の年齢層が上がりやすいこと等がある。次年度はもう少し幅広い参加者が参加しやすい仕組みを検討していきたい。
- ・若年層向け普及啓発講座では、ここ数年間、大学で継続して実施しており、スティグマの解消を目指したいと思っているが、病院の閉鎖的な環境についてや、グループホームの課題等があることを講演で伝えてしまい、アンケートに怖いというような感想が見られた。講演内容については今後の検討を要する。
- ・深め隊は、合理的配慮をテーマにして、障害への配慮をしてもらいながら活躍できるようにと土壌作りをしてきた。
- ・その他、訪問看護ステーションの協力で、地域における福祉医療なんでも相談会を初めて開催した。事業説明と個別の説明会を実施し好評だった。
- ・心のサポーター養成研修も今年度初めて実施した。

【質疑】

美浜区基幹 藤本

- ・特に深め隊の医療機関と相談員の業種横断的な交流会の計画は、医療機関との連携について悩んでいる相談員は多いのでありがたいと思った。

精神保健福祉課 永井氏

- ・公民館講座のやり方を変更する部分に関しては、次年度以降は全区の公民館で実施するのではなく、要望のあった地域での実施や、公民館を使ってという形ではなく、一般の方も参加しやすい講座を検討したい。具体的な内容についてはニーズや実施先を考え検討していきたい。事務局で実施した心のサポーター養成研修については、今年度は第1回目ということで、関係機関からの参加と対象を絞り実施した。次年度は全体のもの少し大きい規模で実施したい。若年向けのものは大学については希望の出ている3大学で実施予定。

議題4【報告】就労部会 令和7年度事業計画

資料④

美浜区基幹 藤本

キャリアセンター藤尾氏、本日欠席のため、就労部会に参加の田口氏、平田氏より報告いただきたい。

花見川区基幹 田口氏

- ・令和7年度の事業計画について話し合いを実施。

一つ目は就労選択支援事業が令和7年10月から始まるが、実施予定の事業所が2事業所という状況。就労選択支援事業所の事業案を作成していく予定。事業所同士の共通認識を図りながら、就労アセスメントの統一を図るためのツールについて等検討していく。事業は令和7年10月に開始するが、令和8年4月に具体的な検証結果を報告することを目指していこうという話をしている。

・二つ目は千葉市の優先調達について。

現状は千葉市内の事業所における受注能力の把握が優先課題となっていることが確認できた。市内の事業所にアンケートを実施し、事業所のリスト化や事業所同士の仕事量が見える化し、自分たちの作業能力について把握していきたい。また、千葉県就労事業振興センターと連携を図りつつ、他市の先進的な取り組みの事例について学ぶ必要があり、見学等を進めていく。

千葉市ひきこもり地域支援センター 平田氏

令和7年度は就労選択支援事業に力を入れてやっていく方向性。アセスメントツールを統一してこうという方向性はあるが、3障害あるのでどこまで統一できるかの検討をしながら指針となるものを作っていく。優先調達については、千葉県就労事業振興センターを部会に招くなどしていこうかという話も出ていた。第1回目の就労支援事業所意見交換会を5月29日に実施する予定。

美浜区基幹 藤本

就労選択支援については、福祉サービスが新しく増えるということで、計画を書いている相談員に向けた研修等も、就労部会に協力いただきながら実施していきたい。

議題5【指針】児童発達支援センターの指針

資料⑤

障害福祉サービス課指導班 荒井氏

千葉市における児童発達支援センター整備に係る指針に沿って説明する。

- ・児童発達支援センターと児童発達支援事業所の違いや果たすべき機能が不明確であることが課題であった。昨年の7月にこども家庭庁から「地域における児童発達支援センター等を中核とした障害児支援体制整備の手引き」が発出され、市主導において地域で中核機能をどのように整備・発揮していくか、支援が必要な子どもをどう支えるかという指針を定めることが示されたことから、今年度、基幹センターや関係団体と協議してきた。
- ・国から示された児童発達支援センターが担う4つの中核機能は、
 - ①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能
 - ②地域の障害児通所事業所に対するスーパーバイズ、コンサルテーション機能
 - ③地域のインクルージョン推進の中核機能
 - ④地域の発達支援に関する入り口としての相談機能
- ・作業部会と講演会での意見の取りまとめについては資料を参照。
- ・国から示された内容と関係者からの意見を基に、千葉市における児童発達支援センター整備にかかる指針を作成した。
- ・千葉市における児童発達支援センターの今後の在り方について、国の示す指針に沿ってまとめている。①については3つ打ち出している。主なものは市が主催する発達支援に関する研修会に参加すること。②については、障害児通所支援事業所及び支給決定を受ける児童が増えていることを踏まえ、事業所同士の横のつながりの構築のため、地域の障害児通所支援事業所が参加できる研修会の開催などを考えている。また、事業所で実施している療育内容や送迎の有無等を具体的に示すことが出来るようにしていきたい。③では、幼稚園、保育園、学校を対象とした研修や意見交換会を開催する。幼稚園や保育園や学校と

の連携は非常に大切と考えている。来年度以降、既存の会議等も活かしながら横の連携のスタートをしていきたいと考えている。④については、国の指針では障害児相談支援事業の指定を有すると打ち出しているが、現実的な部分を考え、指定に準ずる形としている。イメージとしては基幹相談支援センターで実施している相談機能を児童発達支援センターでも出来るようにと考えている。

- ・今後の千葉市における児童発達支援センターは、各区に1か所整備していくが、現状では、地域偏在がある状況にある。
- ・児童発達支援センターの担う機能については、児童発達支援センターの4つの中核機能を担っていただき、中核加算を算定していただきたいと考えている。ただ、既存の6か所のセンターについては、4つの中核機能を担うことを必須とはするが、中核加算の算定について努力義務としている。
- ・また、保育所や子どもルーム等の一般施策との連携は大切と考えており児童発達支援センターを周知するとともに地域に訪問し、横の連携を作っていく。
- ・令和5年度より各区で実施している児童系の意見交換会の内容を自立支援協議会運営事務局会議で共有されていないことから、どのように関わっていくかを検討していきたい。庁内でも教育委員会やこども未来局の所管課と連携しながら横の繋がりを作っていくと考えている
- ・本日の運営事務局会議を踏まえ、市内の児童発達支援事業所に本指針を共有し、児童発達支援センターについて周知する今後の活動状況を踏まえ指針は順次更新していきたい。

【質疑】

美浜区基幹 藤本

- ・この中核機能に対しての指針ができたことで、具体的に地域の事業所同士の横の繋がりだけでなく、その事業所の特色を理解し質的な連携ができるようになること、地域として幼稚園、保育園、教育と一緒に研修等ができるようになるとういと思った。

メープルリーフ 高柳氏

- ・スーパーバイズ、コンサルテーションとして求められる機能の記載、方向性等も具体的でなく、スーパーバイズ、コンサルテーションとしての要件を満たしていないのではないかと感じている。

障害福祉サービス課指導班 荒井氏

- ・現在指針を制定したところであるため、これから具体的に履行方法を検討していくところである。

千葉市発達障害者支援センター 仲村氏

- ・今回の指針を見ると発達障害者支援センターで実施している機能と近いと感じる。発達障害に特化はしているが、入り口相談は巡回相談を実施しているし、機関コンサルテーション機能も持っている。
- ・機関コンサルテーションを実施していることについて、ホームページ等で周知している。保育所や幼稚園からの依頼が多く、今年度92か所に訪問した。児童発達支援事業所や放課後等デイサービスからの依頼はほとんどなく、時折職員から匿名で支援内容についての相談が入ることがある。発達障害者支援センターは要望を受けて訪問する形となるが、療育内容に疑問がある場合等は、市からの指導というような形でスーパーバイズに行けるような体制ができると療育が改善していくのではないかと感じた。
- ・発達支援に関する入口としての相談機能は、こども発達相談室も開設し、千葉市発達障害等に関する巡回相談事業であるすくすくサポートも実施している。

相談の入り口が増え、家族が相談できる場所が増えることは迷うかもしれないが、相談しやすいところに相談できるメリットもあると思う。相談機能が充実し、児童の分野は最終的には児童発達支援センターが担っていけるといいと思う。発達障害者支援センターも他市や他県では16歳・18歳以上を対象としているところもあり、児童に関しては、療育センターや児童発達支援センターが支援を担っているところもあるので、上手くすみわけできるようになるといいと思った。

- ・相談機能の充実は大変だと思うが、相談員が児童発達支援の適切な利用の案内や児童発達支援事業所や保育園、幼稚園等に適切に繋げる支援をすることがとても大切だと思う。児童発達支援センターの職員は研修を実施する側ではあるが、児童発達支援センターの職員への研修も必要で知識を深めていかななくてはと思う。今後に期待していきたい。

障害福祉サービス課指導班 荒井氏

- ・相談機能がいろいろとあると良いと思うが、現在の想定では、児童発達支援センターが療育の相談窓口になったらいいと思っている。療育に困った際の相談機関の一つとして、児童発達支援センターがあるということを知っていただけたらと思う。

議題6【報告】地域生活支援拠点 令和6年度報告

資料⑥

花見川区基幹相談支援センター 田口氏

12月に千葉市の報告会を実施した際に使用した資料の中から抜粋して報告。

- ・千葉市の地域生活支援拠点は、今年度だけでなく、継続して「緊急を緊急にしない」という趣旨で取り組んでいる。特に予防的な取り組みに力を入れている。千葉市の特徴として、福祉サービス利用の方の約9割に相談員がついているので、相談員に向けてグループホームの体験利用をする、一泊一人で過ごせる環境作りをする等、先々に備えて中長期的な計画を立て、準備をするよう促している。
- ・グループホームの体験利用の促しを年3回実施している。令和6年11月には、64名の体験利用の希望があったが、体験利用で止まってしまうことがある。
- ・拠点のメーリングリストを作成し、体験利用の希望が入った時や緊急時に活用している。約60か所の短期入所やグループホームが登録している。
- ・令和6年度の事業内容は、7月に千葉県内の地域生活支援拠点に関わっている事業所や行政の方との意見交換の場を持ち、お互いの課題等を共有できた。
- ・7月26日千葉市の地域生活支援拠点の勉強会を実施した。障害福祉サービス課より、報酬改定の変更点等について説明していただいた。
- ・10月26日にキャリアセンターと共催で就労している方向けの研修会を2年連続で実施した。約130名が参加。参加者は就労している方やそのご家族で、福祉サービス等の繋がりが薄い方が中心だった。事例として、グループホームの生活の体験談や家族のグループホーム入居までの気持ち等をお話いただいたが、グループホームの話が中心になってしまったので、その点は今後活かしていきたい。
- ・医療的ケアや行動障害を考える会と連携をしている。特に行動障害を考える会では、今年度実施したアンケートへの対応について等次年度も引き続き連携していきたい。

【質疑】

鎌取相談センター 末永氏

- ・拠点コーディネーターが地域移行にどう取り組んでいるのか質問したい。
中央区基幹 伊藤氏
- ・拠点コーディネーターとして、体験の機会が大切だと思っているため、予防的な支援に力をいれている。計画相談がついている方は既に促しをしていると思うが、サービスを利用していない方への対応が必要となってくる。働いている方で障害サービスを利用していない方が多いため、キャリアセンターの登録者に向けた講演を実施した。今年度はグループホーム体験のお知らせを学校に向けて出したところ、小学生の保護者から利用したいとの声があった。小学生が利用できる短期入所先や体験先がなかなかないことが課題であり、来年度以降も検討していきたい。
- ・今年度、行動障害のある方でスコア 10 点以上の方のアンケート調査を実施した際に、すぐに入所したいという方がたくさんいて、地域移行というよりは親元を離れる必要がある方たちへの対応が緊急的に必要ということが分かった。その方たちのデータの提供を受け基幹でも来年度の初めに対応していきたい。
- ・精神科病院からの地域移行に関しては、にも包括事業と今後も一緒にやっていきたいと思っている。
- ・医療的ケアのある方や重度の方に関しては、地域移行としては更生園の利用が多い、千葉リハとの連携等していきたい。また医療的ケアのある方達の実態も調査、親元を離れての入所の希望などおおよその把握はしている状況。

議題 7 【報告】行動障害を考える会 令和 6 年度報告

資料⑦

緑区基幹相談支援センター 由良氏

配布資料により行動障害を考える会の令和 6 年度活動報告と次年度事業運営についての報告

- ・3月19日に行動障害を考える会の定例会議が開催され、今年度事業報告と来年度運営方針が検討された。令和2年の会発足から現在までの会の活動を振り返り、会の活動経緯や意義を確認した。
- ・行動障害を考える会では、市の施策である地域生活支援拠点等事業の面的整備・ネットワーク構築といった6区基幹ネットワーク会議の活動と連動する形で進められ、具体的には、障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた居住支援のための機能をもつ場所や、体制の整備等の地域生活支援拠点の機能としての緊急時の対応の受け皿になる市内入所施設（主として知的）の現状について、3回にわたり市内知的系7施設の入所施設から入所施設の実情や運営の方針等の現況と課題の抽出などを行った。
- ・在宅で生活している方で、緊急時に介護者が対応出来ないなどの不測の事態が生じた際に備えて、予期される対応者の状況や実態の把握が重要との考えのもと、在宅で生活する行動障害（行動関連項目のスコアが10点以上）の方を対象に状況把握を実態調査アンケートにて行うこととなった。
- ・アンケートの作成過程は、令和5年に初回素案を示し、熟考を重ね、令和6年に最終案を障害福祉サービス課に提出した。その間、国の指針において、ニーズ把握に当たり、基幹相談支援センターや地域生活支援拠点等と連携してサービスにつながっていない在宅者の把握が示され、このアンケートが今後の行政施策の基礎資料に反映することも目的とされた。アンケートは令和7年8月に行われ12月に報告書が出た。
- ・アンケートは対象者564名中294名の回答があり、うち252名の方が個人情報提供に同意をいただいている。また、35名の方が、できるだけはやく自宅以外での生活を希望していることが分かり、緊急性の高いケースと判断し、基幹

と拠点コーディネーターが連携して対応する。行動障害を考える会では個人情報
 の制約があり、関われる部分が限られるが、助言等の部分で連携していく。

- ・千葉市のグループホームの現状と課題について、ハード面は満たしているもの
 の支援者の対応に苦慮しており、支援者の質の担保といったソフト面での課題
 が報告されており、行動障害のある方の受入れにあたり、支援の困難さに遭遇
 している。そのことから「行動障害の基礎的理解」の習得を目的とした研修を
 メンバーである仲村氏、高柳氏を講師として実施した。1回目は180名、2回
 目は130名が参加する盛況ぶりであった。
- ・令和7年度の活動として、行動障害に関する①研修、②受け入れに当たっ
 ての体制整備について協議、③アンケート結果の検証について取り扱っていく。

メープルリーフ 高柳氏
 アンケート結果のデータは、緊急対応で個別にアドバイスを求められればコア
 会議のメンバー等で対応し、個人情報に触れない範囲で支援に協力していき
 たい。
 全事業所の職員の下支えになればいい。事業所だけで解決が困難な案件は、
 広く意見を交換し少しでも問題解決の糸口が見えるよう力添えできればと思
 う。

千葉県発達障害者支援センター 仲村氏
 行動障害が起きている人たちのアンケートの結果をもとに、何ができるかと同
 時に行動障害をこれ以上増やさない取組ができないかと考えている、そのこと
 に協力できたらいいと思う。

稲毛区基幹 井出氏
 3月19日の行動障害を考える会の際に、特に学校の先生から、研修の必要性
 についての声が多かった。入所やグループホームを運営している事業所から
 は、なかなか強度行動障害の方を受け入れられない現状があるが、そこに
 関して今後も話し合っていきたいという前向きな言葉をいただいた。また、
 行政より、個人情報を開示していいという方のアンケート結果を受け取った。
 早急な対応が必要な方も複数名いた。拠点メンバーと行動障害を考える会
 のコアメンバーと共有しながら進めていきたいと思う。

鎌取相談センター 末永氏
 強度行動障害の方に関して、千葉市で施設整備の補助金を出すという事業が
 何度か掲示されていたと思うが、補助金を利用し行動障害のある方を対象
 としたグループホームの設立が進んでいるのかどうか質問したい。

障害福祉サービス課 北島氏
 重度障害者向けのグループホームの整備について、応募はあったが整備
 まで至らなかったこともあり、思うようには進まなかった。重要な課題
 であると認識しているので、引き続きどのような形で重度障害者への支
 援をしていくのか、検討していく。

緑区基幹 由良氏
 個人情報の提供について同意を得られた方の情報について、市から各基
 幹にデータの提供があった。細かい状況について等、各区の高齢障害支
 援課に協力を頂きたい。

議題8【報告】令和6年度相談支援従事者現任研修の報告 その他

① 現任研修について 稲毛区基幹相談支援センター 井出氏
 稲毛区基幹 井出氏
 令和6年度は千葉県内で234名が受講。千葉市内では43名。(申し込み時点)

	<p>市内では中央区と緑区の受講生が多かった。相談の専任の方の更新というよりも、法人内のステップアップという位置づけで、普段は相談以外の業務に従事している方の受講が多かったように感じている。次年度も、初任者研修・現任研修を基幹センターで実施していくことになるかと思う。</p> <p>② その他</p> <p>鎌取相談センター 末永氏</p> <p>にも包括からの要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行の手順書・マニュアルについて、各区の意見交換会の場で周知・意見交換したい。緑区では既に事例報告という形で予定している。他の区でも実施の相談をしていきたい。 ・グループホーム等支援ワーカーが配置される予定と聞いているが、どの部分を重点課題としてやっていく方向なのか質問したい。 <p>障害福祉サービス課 北島氏</p> <p>グループホーム等支援ワーカーは次年度 10 月からの実施を検討している。グループホーム等支援ワーカーの要望は何年も前からいただいております、必要性も認識していた。やっと来年度から始められることとなった。千葉県のように 1 人が専任で役割をこなすということは人員的に難しい可能性がある。千葉県の取り組みを参考に、どのような部分を担うことができるのかというところを今後検討して決めていきたい。特にグループホームの実情を把握することは重要だと考えている。</p> <p>中央区基幹 伊藤氏</p> <p>来年度、基幹が計画相談員向けに実施する研修の年間予定を立てているが、計画相談員は同月に複数研修があると参加が難しい。にも包括で立てている計画があれば事前に連絡頂き、打ち合わせをしたい。</p> <p>千葉県発達障害者支援センター 仲村氏</p> <p>3 月 29 日～4 月 5 日まで世界自閉症啓発デーの展示を千葉生涯学習センターのアトリウムで実施予定。パンフレット・チラシを送付するので掲示・配布をお願いしたい。</p> <p>障害福祉サービス課 北島氏</p> <p>令和 6 年度運営事務局会議も本日で最後となる。地域部会、専門部会、各会議の報告を基に皆様から貴重なご意見をいただいてより良い取り組みにつながったと思っている。令和 4 年度からの 3 年の任期が今月末で終了となる。来年度は 5 年に 1 回の基幹の運営事業者の更新や、就労選択支援事業も始まる等様々な動きがある。引き続きよろしくお願ひしたい。</p>
次回予定	<p>日時：令和 7 年 5 月 22 日(木)</p> <p>会場：若葉保健福祉センター</p>